

助産婦外来の現状と評価

—産褥期助産婦外来を実施して—

1 病棟 4 階西

○田村 佳子 田中 瑞穂 松本 眞利子
横田 淳子 内田 美智子

I. はじめに

近年、少子化¹⁾・核家族化¹⁾の進行などにより、子どもを生み育てる環境は大きく変化している。現在、初産・経産を問わず、産褥期に育児や母親の心身の不安を訴えるものは少なくない。また、退院後の褥婦の電話による相談や時間外の受診も数多くみられる。

そこで私たちは、褥婦の不安を軽減し、褥婦及び家族が楽しく子育てをできることを目的に、平成 11 年 7 月 7 日より、助産婦の専門性を生かした産褥期助産婦外来を開設した。この外来は予約制で週に 1 回午前中に、生活機能向上センターで 1 人 1 回 30 分実施している。開設後約 1 年経過したのを期に、助産婦外来の現状を把握し改善点を探るために、アンケート調査を行ったので報告する。

II. 研究方法

1. 対象

平成 11 年 7 月から平成 12 年 5 月までに、山口大学医学部附属病院で分娩し、助産婦外来を受診した褥婦 221 名を対象とした。対象の背景は表 1 に示した。助産婦外来は退院後約 1 週間目に実施した。

2. 方法

助産婦外来の運営・退院後の不安・今後の希望についてアンケート調査を行い、助産婦外来についての現状把握と、今後の課題について検討した。

アンケート調査票は郵送法とし、145 名より回答を得た。回収率 65.6%であった。

初産・経産の検討は χ^2 検定を行い、危険率 5% 未満を有意差ありとした。

III. 結果

1. 助産婦外来実施時期・時間に関しては時期が適当と答えた者は 110 名(75.9%)、時間が適当と答えた者は 135 名 (93.1%) であった (図 1)。
2. 退院後から助産婦外来を受診するまでの間に不安・心配事があった者 110 名(75.9%)であった (図 2)。初産婦は経産婦に比べ、褥婦自身の乳房 ($P<0.01$)・排泄 ($P<0.05$)・睡眠 ($P<0.05$) について、児の嘔吐について ($P<0.05$) 不安を訴える者が有意に多かった (図 3)。
3. 助産婦外来の受診以降に不安があったと答えた者は 75 名であり、初産婦は経産婦に比べ有意に多かった。 ($P<0.05$) (図 4)。不安の内容は母親自身の乳房トラブル・悪露の

量について、児の湿疹・嘔吐・便秘・哺乳量不足について多かった。

4. 助産婦外来で相談できたと答えた者 138名(95.2%)であった。理由については、「個別だったので話しやすかった」82人、「入院中に関わったスタッフだったので話しやすかった」76人であった。相談できなかったと答えた者は理由として、時間が足りないことをあげていた。
5. 助産婦外来を受診してよかったと答えた者 140名(96.6%)であった(図6)。受診してよかった理由として、初産婦では経産婦に比べ不安・心配事が軽減したと答えた者が有意に多かった。(P<0.05)(図7)。
6. 助産婦外来の受診に関して困った点があったと答えた者 87名(60.0%)であった。理由としては、来院するとき家族・知人の手を必要とした56人、駐車場が混んでいた35人が多かった(図8)。
7. 再度妊娠・出産した場合、次回も助産婦外来を受診したいと答えた者 136名(93.8%)であった(図9)。
8. 今後の助産婦外来の希望に関して、回数については、「1回」24名(16.5%)、「2回」71名(49.0%)、「3回以上」38名(26.2%)、無回答12名(8.3%)であった。時期については、「1ヶ月以内」46名(31.7%)、「3ヶ月以内」47名(32.4%)、「半年以内」28名(19.3%)、「1年以内」8名(5.5%)、無回答12名(8.3%)、その他4名(2.8%)であった。内容については、「乳房外来があったらいい」「電話相談が気軽にできたらいい」「育児相談があったらいい」「よくある質問を冊子にしてほしい」という希望がみられた。

IV. 考察

今回のアンケート結果より、助産婦外来の実施時期は適当であったと考えられる。我々は産後の入院期間中のケアを、母子の健康増進、次世代育成能力の拡大を目標にスケジュール表に沿って実施しているが、退院直後より家庭内でのいろいろな場面においてトラブルに直面し、不安・心配事が誘発されていた。助産婦外来の実施時期は本人が家庭内で試行錯誤し、専門的な知識・技術のサポートを得たいという時期と一致したと考えられる。

退院後より助産婦外来までの間に不安・心配事があったと答えた者は75.9%であった。この時期は新道ら²⁾が褥婦の危機の背景となる生活状況としてあげている「新生児との母子関係、及び上の子どもの関係、夫との関係の再定義の必要を体験している」時期であり、不安・心配事が生じてきたと思われる。

助産婦外来受診以降に、不安があったと答えた者は51.7%であった。対象者のうち核家族は90.3%であった。褥婦は、育児のほかに家事責任の遂行など、生活パターンの変化に対するストレスがある。これらの生活の変化に戸惑いや、非常に深い否定的感情(怒り、恐れ、悲しみ、不安、心配)など危機を体験している²⁾と考えられる。身近に相談相手を持たない家族構成の褥婦に対しては、1ヶ月健診後もフォローが必要と思われる。

助産婦外来は病棟スタッフが実施している。病棟スタッフは妊産褥婦に対し、妊娠中の母親学級、出産、母児同室、助産婦外来、電話訪問など一連のケアを行っている。入院中に関わった褥婦及び新生児の個人情報・問題点を産科サマリーに記録し、助産婦外来でも活用し

ている。継続ケアが行われ、また、記録物によってスタッフ間の情報の共有が行え、褥婦の状態把握がスムーズにできたことからお互いにコミュニケーションが取れやすく、助産婦外来で相談できたと答えた者が95.2%の高率を占めたのではないかとと思われる。

少数ではあるが、時間が足りないという指摘があった。今後、褥婦自身に事前に聞きたい内容をメモ書きしてくるよう指導を徹底させることで解消できると思われる。

助産婦外来を受診してよかったと96.6%の者が回答し、次回の妊娠出産後も助産婦外来受診を希望すると93.8%の者が答えた。これは受診時期・内容が、褥婦のニードにあったと考えられる。

助産婦外来受診に際して困った点の中で、「上の子どもをあずけてきた」という点に関しては、病院内外の託児施設の活用等、今後検討すべき点ではないかとと思われる。

今後の助産婦外来の希望で時期に関しては、75.2%の者が2回以上の受診を希望している。現在の状況では、対象者全員が2回以上受診するのは難しい。現時点では、電話相談を随時受け付けるということで補うことができるのではと考える。

内容に関して、乳房外来があればよいとの希望がみられた。助産婦外来の延長上に乳房外来が開設できることが望まれる。また、よくある質問を冊子にしてほしいという希望に関しては、現在行っている退院指導の内容を再検討し、褥婦の不安を軽減できるよう努める必要があると思われる。

V.まとめ

助産婦外来の現状を把握し、改善点を探ることを目的とした。

対象は、平成11年7月から平成12年5月までに、当院で分娩し助産婦外来を受診した褥婦221名とし、アンケート調査を行い以下の結果を得た。

1. 助産婦外来の実施時期は産後の不安・心配事をもつ褥婦にとって、適当であった。
2. 褥婦は助産婦外来を受診することにより、不安・心配事に対する相談ができた。
3. 褥婦は助産婦外来を受診後不安・心配事が軽減した。
4. 再度、妊娠・出産した場合も助産婦外来の受診を希望するとの回答から、助産婦外来は社会のニードに応える手段であり重要な役割を果たしているといえる。

今回の結果をもとに今後も、より褥婦のニードに答えられるよう日々努力していきたい。

引用・参考文献

- 1) 厚生省編：平成11年版厚生白書 社会保障と国民生活：242, 342, 1999
- 2) 新道幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア，医学書院，130, 1999
- 3) 橋本公子：大学病院で妊婦に満足いくケアを 徳島大学医学部附属病院の助産婦外来，50 (2) : 33~41, 1996
- 4) 青木淑恵他：助産婦外来の1年をふり返る 利用者のアンケート調査から，助産婦雑誌，47 (2) : 19~22, 1993

年齢	人数	(%)
19歳以下	0	
20~24歳	15	(10.3)
25~29歳	52	(35.9)
30~34歳	51	(35.2)
35歳以上	27	(18.6)
家族形態		
核家族	131	(90.3)
複合家族	13	(9.0)
その他	1	(0.7)
職業		
有り	45	(31.0)
無し	100	(69.0)
産科的背景		
初産	81	(55.9)
経産	64	(44.1)
経膈	112	(77.2)
帝王切開	33	(22.8)
里帰り有り	45	(31.0)
里帰り無し	100	(69.0)
満期産	134	(92.4)
早産	11	(7.6)
単胎	138	(95.2)
双胎	7	(4.8)

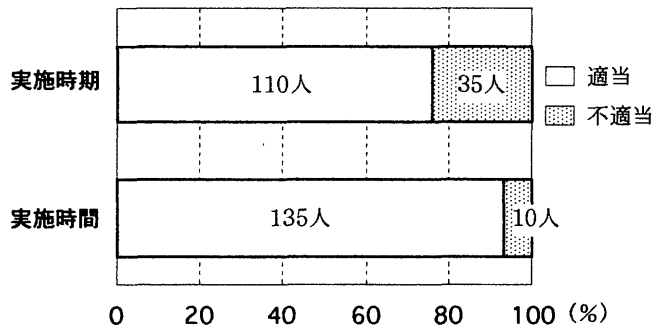


図1 実施時期・時間について

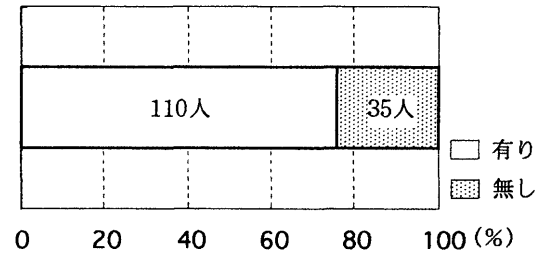


図2 受診までの不安について

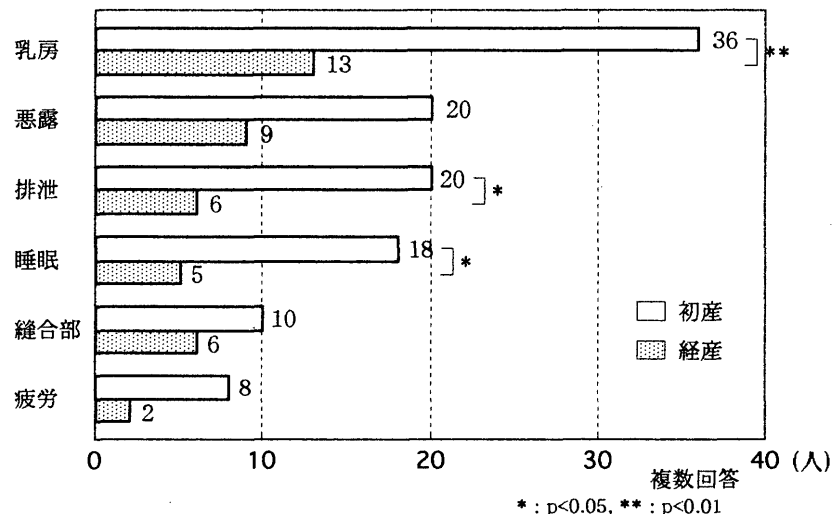


図3-1 不安内容 (褥婦自身について)

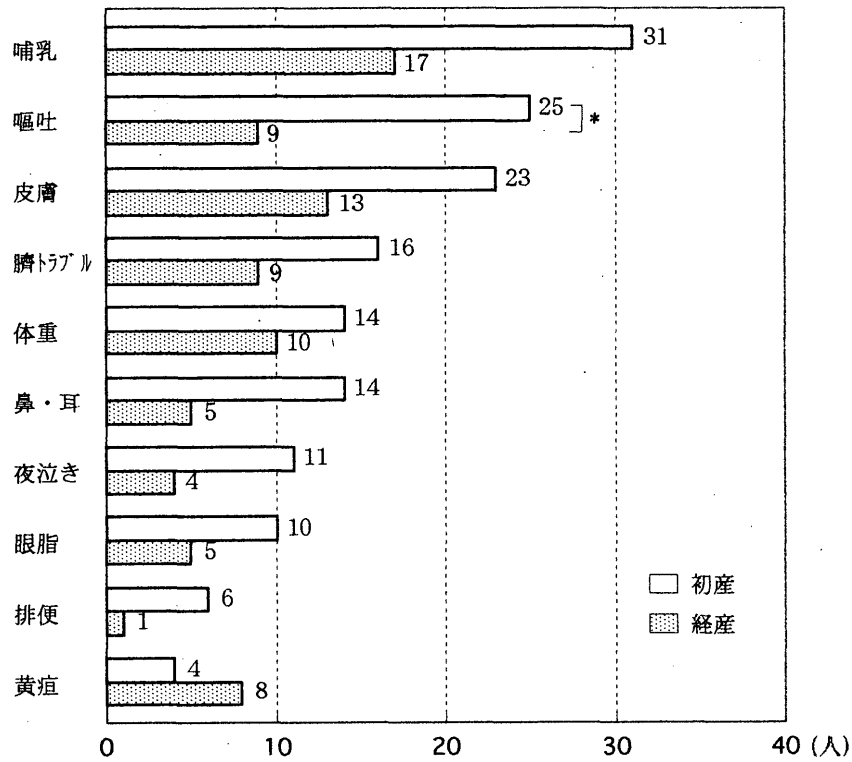


図3-2 不安内容 (児について)

複数回答
*: p<0.05

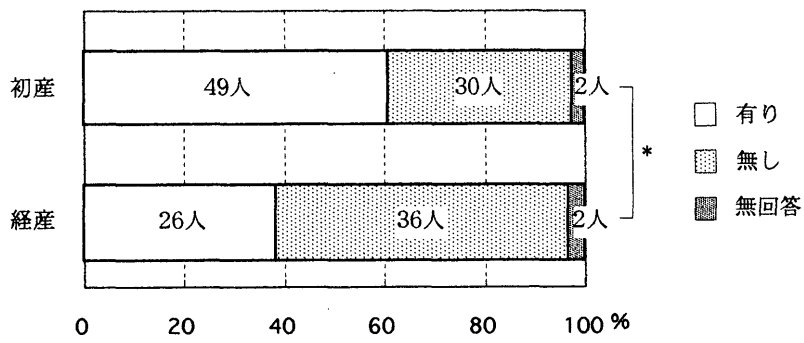


図4 受診以降の不安

*: p<0.05

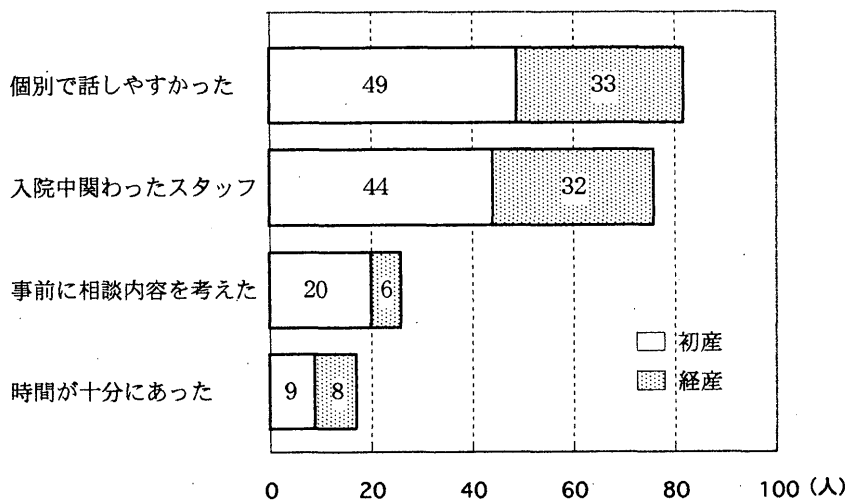


図5 相談できた理由

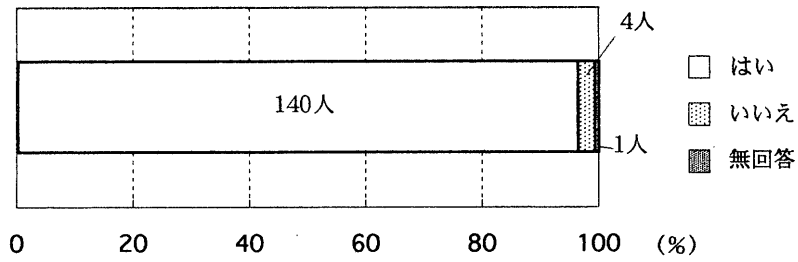


図6 受診してよかったか

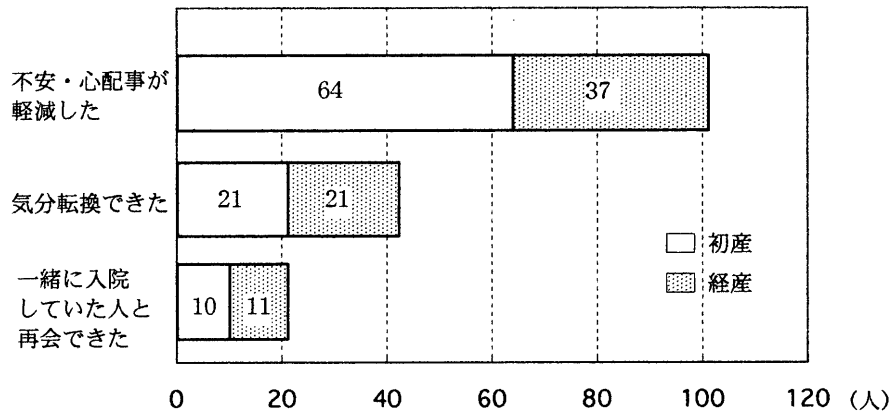


図7 受診してよかった理由

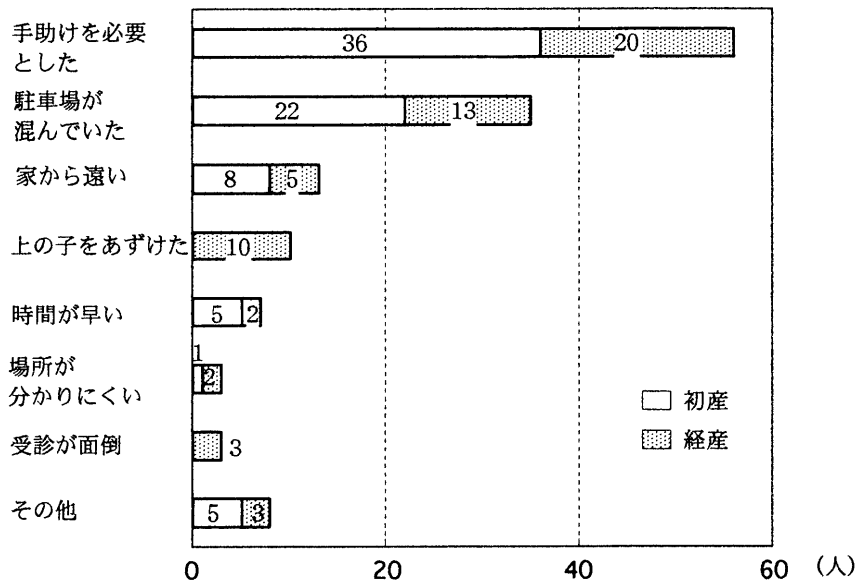


図8 受診する際困った点

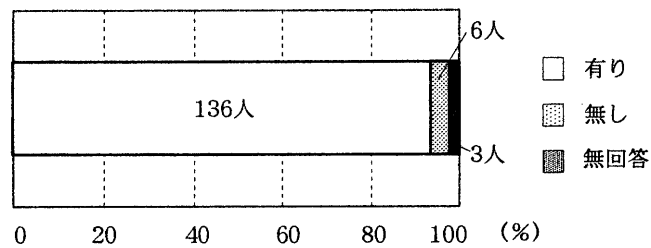


図9 次回妊娠・出産した場合の受診希望